



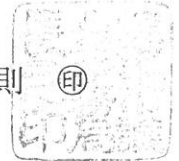
様式第3号（第4条関係）

塩竈市議会一般会議報告書

平成29年 4月19日

塩竈市議会議長 香 取 嗣 雄 殿

塩竈市議会事務局長 鈴 木 康 則 印



開催日時	平成29年3月13日（金） 午後2時～午後4時
開催場所	塩竈市魚市場 機能支援施設 大会議室
会議の議題	新塩釜魚市場の水揚げ及び売り上げの拡大を図るために、背後機能である、冷蔵等の施設整備の必要性について
出席議員名	菅原善幸 議員 浅野敏江 議員 西村勝男 議員 阿部眞喜 議員 阿部かほる 議員 香取嗣雄 議員 山本進 議員 伊藤博章 議員 志賀勝利 議員 今野恭一 議員 菊地進 議員 鎌田礼二 議員 志子田吉晃 議員 土見大介 議員 伊勢由典 議員 小高洋 議員 曾我ミヨ 議員
参加関係団体等名	塩釜魚市場水産加工業協同組合
参加団体等の人数	11人
傍聴人数	2人

発言者名	主な発言要旨等
塩釜魚市場水産 加工業協同組合 内海代表理事 組合長	<p>本市の水産業界の現状は、凍結設備が不足している。</p> <p>塩竈市魚市場での加工原料としてのサバの取り扱いは、長年の課題であった。</p> <p>当魚市場は、マグロに特化しており、加工原料が全くないという状況であり、危惧していた。</p> <p>数年前から少しずつ、サバを入れ、2月末では3,800トン、2億6,600万円が水揚げされた。</p> <p>現在、凍結設備は、1日で200トン程度の処理能力であり、3社での対応は、2日間で、350トンの数量をこなす状況である。</p> <p>約400トンの凍結設備があれば、入港船2艘で年間1万トンの水揚げが期待される。</p> <p>ちなみに、銚子は1日に6,000トン水揚げに対応できる凍結設備があり、石巻は2,000トン、気仙沼も七、八百トン持っている。</p> <p>塩竈では、昔は凍結庫があったが、加工原料、前浜の魚が揚がらないため、取り壊してしまった経過がある。</p> <p>凍結施設が200トンの処理能力のため、船も何回か断っており、サバだけでも1万トン。いずれ、イワシやイナダ、イカ、サンマも含めて、徐々に塩釜港に船を入れ、当面は、最低でも3万トンを目指していきたいと考えている。</p> <p>現在では、建設費も震災前の2倍から3倍かかるとともに、サバの場合は、施設の稼働率が低く、補助金がないと建設できないと考える。</p> <p>これを達成するのにも、市議会の皆様のご支援と協力がなければ、達成することができない。</p> <p>塩竈もいずれは買受人が100人を割ってくるおそれがあり、地域の問題は地域の方々が真剣になって考えないと、基幹産業の水産業が衰退することは明らかである。</p>
塩釜魚市場水産 加工業協同組合 松本理事	<p>(映像資料により説明)</p> <p>巻き網船で、約300トンの水揚げがあった日の映像である。</p> <p>業界では「ダンベ」と称するタンク、約1トンの収容容積がある。</p> <p>凍結工場の中の凍結作業において、最初に「ダンベ」が凍結工場に入り、この「ダンベ」を選別機ラインに引きかえる。</p>

	<p>全部ライン化され、それぞれ魚の大きさによって種類分けがされる。</p> <p>小さいものは飼料などに分か、200グラムから300グラム、300グラムから400グラム、400グラムから500グラム、それ以上と4・5種類ぐらいに魚の重さに選別される。</p> <p>選別されたサバは、段ボール詰になり、板状の段ボール紙を自動的に箱にして製函する機械に入れ、自動的に箱になる。</p> <p>箱が製函されたら、その中に「内袋」と称する袋状のフィルムが自動的にかかり、その袋の中に自動的に一箱15キロの重さで一箱一箱、袋詰めをしていく。</p> <p>その後、封函されて、ラベル貼りやバンドかけが入って、凍結棟に入るという一連の凍結ラインの説明である。</p> <p>マイナス50度ぐらいの凍結棟に入り、その後、約13時間から15時間、一昼夜以上凍結し、それから凍結棟を出て、それぞれ約マイナス30度の冷蔵庫に送られるという一連の作業である。</p>
山本進議員	<p>これまでの様々な漁業規制があり、去年の太平洋クロマグロの資源管理が実施されたことにより、マグロを主体としてきた塩竈市魚市場において、青物の取り扱いについて、ようやく現実味を帯びた。</p> <p>現在200トンぐらいしかサバの水揚げができないとのことだが、冷凍・冷蔵の設備を整備することによって、年間1万トン、約7億円の水揚げと捉えてよろしいか。</p>
塩釜魚市場水産加工業協同組合内海代表理事組合長	<p>そのとおり。</p>
山本進議員	<p>サバは、小さい魚体なので、手間暇がかかるが、その処理体制は。</p>
塩釜魚市場水産加工業協同組合内海代表理事組合長	<p>ことしもサバは小さく200グラムから300グラムが中心である。</p> <p>現在はコンピューターで魚種を選別する流れである。</p> <p>日本では大きさや型のリクエストが厳しいが、外国ではタンパク質として必要にしている国もあり、原料は売れる。</p>

<p>山本進議員</p>	<p>サバは、輸入凍結と違って、高い魚でなく、キロ 70 円から 80 円であるが、原料として売れる。</p> <p>加工品を海外に売る場合は、食文化が違うため、簡単ではなく、コスト的に難しい。</p> <p>サバを加工する背後の企業がこれから育つ可能性は。</p>
<p>塩釜魚市場水産 加工業協同組合 内海代表理事 組合長</p>	<p>加工原料としてのサバは、背後地の影響が大きく、サバを入れたことによって、加工業者においてサバ加工が多くなってきた。</p> <p>この原料の世界情勢は、海外で買われていき、日本にはだんだん来なくなる可能性がある。</p> <p>それゆえに以前から、前浜から塩竈市魚市場に加工原料を揚げて、加工原料を地元で加工し、塩竈から発信することが一番であり、それをやらないと競争に勝てないと言ってきた。</p> <p>また、ほかの港から原料を買うことにより、他所に工賃、運賃、相手の利益を払わなければならないから、塩竈で揚げることを言ってきた。</p>
<p>山本進議員</p> <p>塩釜魚市場水産 加工業協同組合 内海代表理事 組合長</p>	<p>繁忙期の施設の利用は。</p> <p>サバは、秋の9月がスタート、3月で終了する。</p> <p>TAC（漁獲可能量）が問題であり、本マグロの漁獲割り当ては、1,300 トン。サバも漁獲割り当てがあり、3月で終了する。</p> <p>また、強風の影響を受けると出航できないので、操業日数が少ない。</p>
<p>志賀勝利議員</p>	<p>昭和55年当時から「青物会」が魚市場にあり、定期的に会議を開いてきたが、徐々にイワシやサンマが入らなくなった。</p> <p>東日本大震災後、凍結設備が再構築され、青物が入ってくるようになったが、船を入れるためには最低でも同じ単価か、1円でも2円でも高く買わなければいけない。</p> <p>加工する業者の原価が高くなってくる。</p> <p>「出費」（数量が増える）の問題は、当時から石巻が約20%、塩竈は5%しか出ないのでとても買えないという議論もあったが、現在でも問題点は同様である。その対策は。</p>

<p>塩釜魚市場水産 加工業協同組合 内海代表理事 組合長</p>	<p>塩竈は、必ず石巻より値段を高くしており、このことにより安定的に入船するようになった。</p> <p>石巻は実績があり、石巻より3円でも5円でも高くしないと船は定着しない。3年間は船が定着するまで石巻の相場より高くする。</p>
<p>塩釜魚市場水産 加工業協同組合 志賀組合員 (株塩釜魚市場 代表取締役 社長)</p>	<p>価格や目方の面で、今の魚場が鹿島沖と銚子であり、銚子から塩竈に来る場合、船の油代がかかる。このため、銚子の値段より5円でも10円でも高くとる。石巻にも行くが、石巻の値段よりも1円でもなるべく高い値段で買っている。</p> <p>魚場によって型も大きさも違うが、関係者に納得してもらおう形で、現在は行われている。</p> <p>これまで塩竈は、バックヤードの加工業者で、選別機械がなかったもので、種類別に、グラムごとに手作業で選別しなければならない。</p> <p>選別する会社は塩竈に4社ある。</p> <p>また、目方の問題についても石巻、気仙沼などから情報をとり、同じような市場の形態で、目方が切れないように、ほかの産地と同じような形でやっている。</p> <p>巻き網船は漁業規制の関係で6,000トン以上とると2日休み、4,000トン以上とって1日休むという規定がある。</p> <p>また、サバやイワシ、ワラサなどその漁獲の方法も勉強してきた。</p> <p>「ダンベ」も各業者100個ぐらい保有し、現在は400個整備している。</p> <p>新塩竈市魚市場は国の支援を受けて整備しており、前浜物を何%以上水揚げしなくてはならないという規定があることから、今一生懸命頑張っている。</p>
<p>曾我ミヨ議員</p>	<p>宮城県議会で村井知事が冷凍施設整備の答弁をしており、本日の出席者は一致団結して塩竈に冷凍庫を誘致しようとしているものと受けとめている。</p> <p>資料の中には、誘致先や補助金の必要性も記されているが、土地の問題、あるいはその冷凍施設に対する支援等の後押しが必要と思うが、見通しがあればお伺いしたい。</p>

<p>塩釜魚市場水産 加工業協同組合 内海代表理事 組合長</p>	<p>近々の問題は、冷凍庫でなく、凍結設備である。 この地区の冷凍庫は約8万トンで、深刻な不足はない。</p>
<p>塩釜魚市場水産 加工業協同組合 津田組合員 (株塩釜魚市場 専務取締役)</p>	<p>サバに関しては選別機を入れる凍結設備が全く不足している。 冷蔵庫の施設としては、塩釜地区で約3年前から冷凍カツオが ふえ、ことしが約3億円、来年以降は約5億円の水揚げを期待できる。 冷凍カツオは、塩釜地区で超低温の冷蔵庫が2社で、約3,700トン だが、超低温の設備自体が不足している。 この2つの方向の設備投資をこれから考えていかないと、魚市場の 水揚げ目標の達成が難しい。 また、サバの専業船が、北部太平洋地域で19隻があり、そのほとん どの船が新造船して、将来的にも継続した漁業を行なえる状態になっ ている。サバ漁は、TAC制になって、規制はされるが、サバの資源 量はかなり豊富であり、これからの将来見込める資源量で、将来性が ある。 400トンの処理能力になると、随時2隻体制で受け入れ、稼働率は 飛躍的にふえ、1万トンの水揚げは絶対可能な数字であり、将来の塩 竈の柱として考えていきたい</p>
<p>曾我ミヨ議員</p>	<p>加工する従業員の求人難の問題もあり、1万トンのサバを処理する 施設を整備した場合、処理の見通しは。</p>
<p>塩釜魚市場水産 加工業協同組合 内海代表理事 組合長</p>	<p>塩竈は9月から3月までにかけて約5,000トン程度であり、1万ト ン入れても何も困らない状況である。 塩竈市魚市場でサバを扱う3社とも需要がある。 1万トンを入れてくると、日本の商社は力があるので、銚子の方 多いところでは1日で1,000トン処理する会社もある。 また、小さいサバでも海外では需要がある。</p>
<p>志賀勝利議員</p>	<p>基本的な確認だが、今回の一般会議の議題と県が塩竈に冷蔵庫をつ くるとの話との関連性は。</p>

<p>塩釜魚市場水産 加工業協同組合 内海代表理事 組合長</p>	<p>新聞報道では、冷蔵庫とあるが、塩竈で建設する人はいないのでは。凍結設備と書けばいいのだが、冷蔵庫も凍結設備も一緒くたになっている。</p>
<p>曾我ミヨ議員</p>	<p>実際は凍結設備という理解でよろしいか。</p>
<p>塩釜魚市場水産 加工業協同組合 内海代表理事 組合長</p>	<p>そのとおり。 超低温もいずれ足りなくなる可能性がある。 問題点として、①土地の問題、②補助金の問題、③人手の問題がある。 150～200トンの能力という、25～30人の体制となる。 組合は相互に協力し合える環境にあるのが強みである。</p>
<p>伊勢由典議員</p>	<p>2月定例会において、塩竈市魚市場の水揚げ目標120億円の中で、青物、特にサバの水揚げについて、市当局へ説明し、市長からは、宮城県に話を伺うという答弁があった。 今後、背後地や補助の問題等を含めて、一定の見通しと展望を持ちながら、喫緊の課題として凍結施設の整備について、組合と市当局、議会との連携の考え方について伺いたい。</p>
<p>塩釜魚市場水産 加工業協同組合 内海代表理事 組合長</p>	<p>地方卸売市場運営協議会において、凍結庫の必要性と水揚げの現状について提言した。 課題として、①塩釜港の岸壁近くに凍結設備をつくらないと効率悪く、海水を使う可能性もある。②老朽化した設備では稼働率が低く、機能的な新設備も補助金がないと困難である。③人手の問題として、塩竈でも若い外国人の活用を検討していく必要がある。 現状でも塩竈には、外国人留学生五、六百人が基幹産業である水産業・水産加工業を支えている。 議員の方々にも過去の基幹産業の経過を認識し、地域の水産業の活性化について、どうしていくかまち全体の問題として協力願いたい。 次世代に水産業、水産加工業を残していくためにも大きなチャンスとして、凍結庫を整備して、サバだけでなく、イワシやイナダ、サンマ等を入れれば最低でも3万トンという数字が見えてくる。</p>

山本進議員	<p>いずれこのまちの流れも少しは変わると考えており、それには市議会議員の方々の協力なしにはできない。</p> <p>140億円もかけて新魚市場をつくったが、新たな魚種に拡大していかなければ、塩竈市魚市場の将来のないという懸念をしていた。</p> <p>マグロの代替魚としてのサバであり、新魚市場の明日を担う魚種としてこの問題があるということを認識した。</p>
志賀勝利議員	<p>今回のこの計画の具体的な内容について、事業の予算規模が25～30億円と資料にあるが、土地の取得や県、国の補助、市の対応等を伺い、組合の要望を議会として受けとめ、議会として、県や市当局に対する意見書や要望等を行う判断材料として、基本的な骨子をお伺いしたい。</p>
塩釜魚市場水産加工業協同組合内海代表理事組合長	<p>現在、組合なりに様々な折衝を行っており、詳細はまだ差し支えある状況である。</p>
志賀勝利議員	<p>具体的に詳細が整っていない段階であれば、議会としても、また一般会議などで、業界の方々のご意見を伺い、行動していきたい。</p>
塩釜魚市場水産加工業協同組合内海代表理事組合長	<p>以前にも、塩釜商工会議所の会議でも話したが、震災後、石巻では、地元選出の国会議員との連携も深く、水産関係での約1千億円の国からの支援があったが、塩竈は約150億円の状況だった。</p> <p>塩竈でも地元選出の国会議員の協力が必要であり、議会のご尽力をお願いしたい。</p>
菊地進委員	<p>本日の一般会議で、組合の方々の意気込みを伺った。</p> <p>議会も一般会議の申し入れ後の定例会で対応し、市当局へ質問した。</p> <p>毎回、定例会がある度に、水揚げの減少対策や基幹産業である水産業の振興のあり方を当局に質している。</p>

<p>塩釜魚市場水産 加工業協同組合 内海代表理事 組合長</p>	<p>今後、市当局と話し合いをした後に、その相談内容を議会へ情報提供いただければ、議会としてもさらに水産業のために市当局へ質す等、協力できる事柄が増えると考えてる。 情報の早目の伝達をお願いしたい。</p> <p>了解した。</p>
---	--